
2023年度第2四半期決算説明会

2023年11月7日

日立造船株式会社

目次

- 財務情報 3
- 経営・事業情報 19

財務情報

専務執行役員 企画管理本部長
木村 悟

- 2022年度に営業利益が第2四半期で黒字化したのに続き（10期振り）、経常利益・当期純利益が第2四半期で黒字化（11期振り）
- 売上高・営業利益・経常利益・当期純利益の通期見通しを上方修正

(単位：億円)

	2022年度		2023年度				
	1-2Q	通期	1-2Q		通期		通期見通し 進捗率
	実績	実績	実績	前期比	見通し	前期比	
受注高	3,188	7,375	3,467	279	6,200	-1,175	55.9%
売上高	2,072	4,926	2,321	249	5,400	474	43.0%
営業利益	1	200	11	10	230	30	4.8%
営業利益率	0.0%	4.1%	0.5%		4.3%		
経常利益	-27	178	19	46	190	12	10.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	-32	155	3	35	130	-25	2.3%
ROE		11.5%			9.0%		

2023年度通期見通しの修正について：期初見通しから、次の通り修正を行った。

受注高	：	5,300億円	→	6,200億円	(第1四半期決算で修正)
売上高	：	5,200億円	→	5,400億円	
営業利益	：	220億円	→	230億円	
経常利益	：	180億円	→	190億円	
当期純利益	：	120億円	→	130億円	

2023年度 第2四半期決算 セグメント別受注高・売上高・営業利益

(単位：億円)

	2022年度		2023年度			
	1-2Q	通期	1-2Q		通期	
	実績	実績	実績	前期比	見通し	進捗率
受注高	3,188	7,375	3,467	279	6,200	55.9%
環境	2,443	5,612	2,700	257	4,700	57.4%
機械・インフラ	466	902	400	-66	860	46.5%
脱炭素化	234	762	357	123	620	57.6%
その他	45	99	10	-35	20	50.0%
売上高	2,072	4,926	2,321	249	5,400	43.0%
環境	1,431	3,481	1,692	261	3,965	42.7%
機械・インフラ	391	882	408	17	890	45.8%
脱炭素化	207	466	211	4	530	39.8%
その他	43	97	10	-33	15	66.7%
営業利益	1	200	11	10	230	4.8%
環境	-1	150	5	6	190	2.6%
機械・インフラ	3	34	7	4	26	26.9%
脱炭素化	-5	4	-3	2	12	—
その他	4	12	2	-2	2	100%

(単位：億円)

	2023年度			
	見通し			
	期初 a	前回(8月)	今回(11月) b	増減 b-a
受注高	5,300	6,200	6,200	900
環境	3,910	4,700	4,700	790
機械・インフラ	860	860	860	0
脱炭素化	515	620	620	105
その他	15	20	20	5
売上高	5,200	5,200	5,400	200
環境	3,765	3,765	3,965	200
機械・インフラ	850	850	890	40
脱炭素化	570	570	530	-40
その他	15	15	15	0
営業利益	220	220	230	10
環境	180	180	190	10
機械・インフラ	26	26	26	0
脱炭素化	12	12	12	0
その他	2	2	2	0

(単位：億円)

環境事業（全体）	2023年度			
	見通し			修正理由
	期初	今回	増減	
受注高	3,910	4,700	790	9ページ 参照
EPC(新規建設)	2,290	1,920	-370	
継続的事業	1,620	2,780	1,160	
売上高	3,765	3,965	200	
EPC(新規建設)	2,125	2,265	140	
継続的事業	1,640	1,700	60	
営業利益	180	190	10	
EPC(新規建設)	48.5	50	1.5	
継続的事業	131.5	140	8.5	

（単位：億円）

環境事業 （Inovaを除く）	2023年度			
	見通し			修正理由
	期初	今回	増減	
受注高	1,990	1,990	0	
EPC(新規建設)	670	540	-130	失注、案件の見直しなど
継続的事業	1,320	1,450	130	基幹改造、長期運営の増加
売上高	2,085	2,095	10	
EPC(新規建設)	725	695	-30	バイオマス発電案件の納期遅延による減収など
継続的事業	1,360	1,400	40	当期売上案件の受注
営業利益	88	78	-10	
EPC(新規建設)	-16.5	-40	-23.5	バイオマス発電案件の追加費用
継続的事業	104.5	118	13.5	基幹改造、長期運営、売電事業の改善

Inovaグループ

受注高	1,920	2,710	790		スイスフランについて、 換算レートを以下の 通り見直した 期初： 1CHF=130円 変更後：1CHF=155円
EPC(新規建設)	1,620	1,380	-240	案件の見直し	
継続的事業	300	1,330	1,030	英国でWaste to Energyの長期運営を受注	
売上高	1,680	1,870	190		
EPC(新規建設)	1,400	1,570	170		
継続的事業	280	300	20		
営業利益	92	112	20		
EPC(新規建設)	65	90	25		
継続的事業	27	22	-5	子会社の悪化（失注）	

(単位：億円)

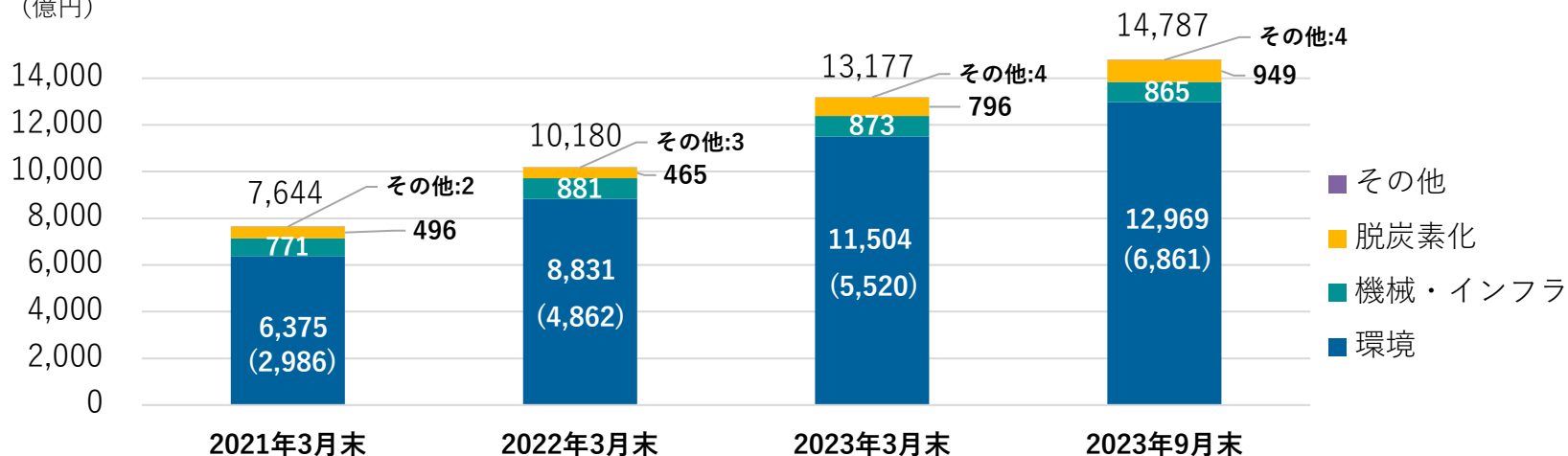
機械・インフラ事業	2023年度			
	見通し			修正理由
	期初	今回	増減	
受注高	860	860	0	
プレス	190	190	0	半導体製造装置市場の回復遅れ
精密	320	300	-20	
その他機械	90	90	0	
インフラ	260	280	20	受注が好調
売上高	850	890	40	
プレス	180	190	10	アフターサービスの売上増など
精密	300	310	10	食品・医薬関連機器、フィルタープレスが好調
その他機械	110	120	10	今期売上案件の増加
インフラ	260	270	10	工事が順調に進捗
営業利益	26	26	0	
プレス	3.5	3.5	0	
精密	12	12	0	
その他機械	6	6	0	
インフラ	4.5	4.5	0	

(単位：億円)

脱炭素化事業	2023年度			
	見通し			修正理由
	期初	今回	増減	
受注高	515	620	105	
エンジン	220	220	0	
プロセス	240	240	0	
脱炭素化システム	50	50	0	
風力	5	110	105	むつ小川原陸上風力の長期運転およびメンテナンス（20年間）を受注
売上高	570	530	-40	
エンジン	235	220	-15	今期売上案件の減少
プロセス	210	220	10	東双みらい製造(株)の新工場向け案件
脱炭素化システム	45	50	5	海水電解装置の増収
風力	80	40	-40	むつ小川原陸上風力のスケジュール見直し
営業利益	12	12	0	
エンジン	2	0	-2	円安による海外調達品のコストアップ
プロセス	7	9	2	工事が順調に進捗、コストダウン
脱炭素化システム	3	3	0	
風力	0	0	0	

受注残の推移

(億円)



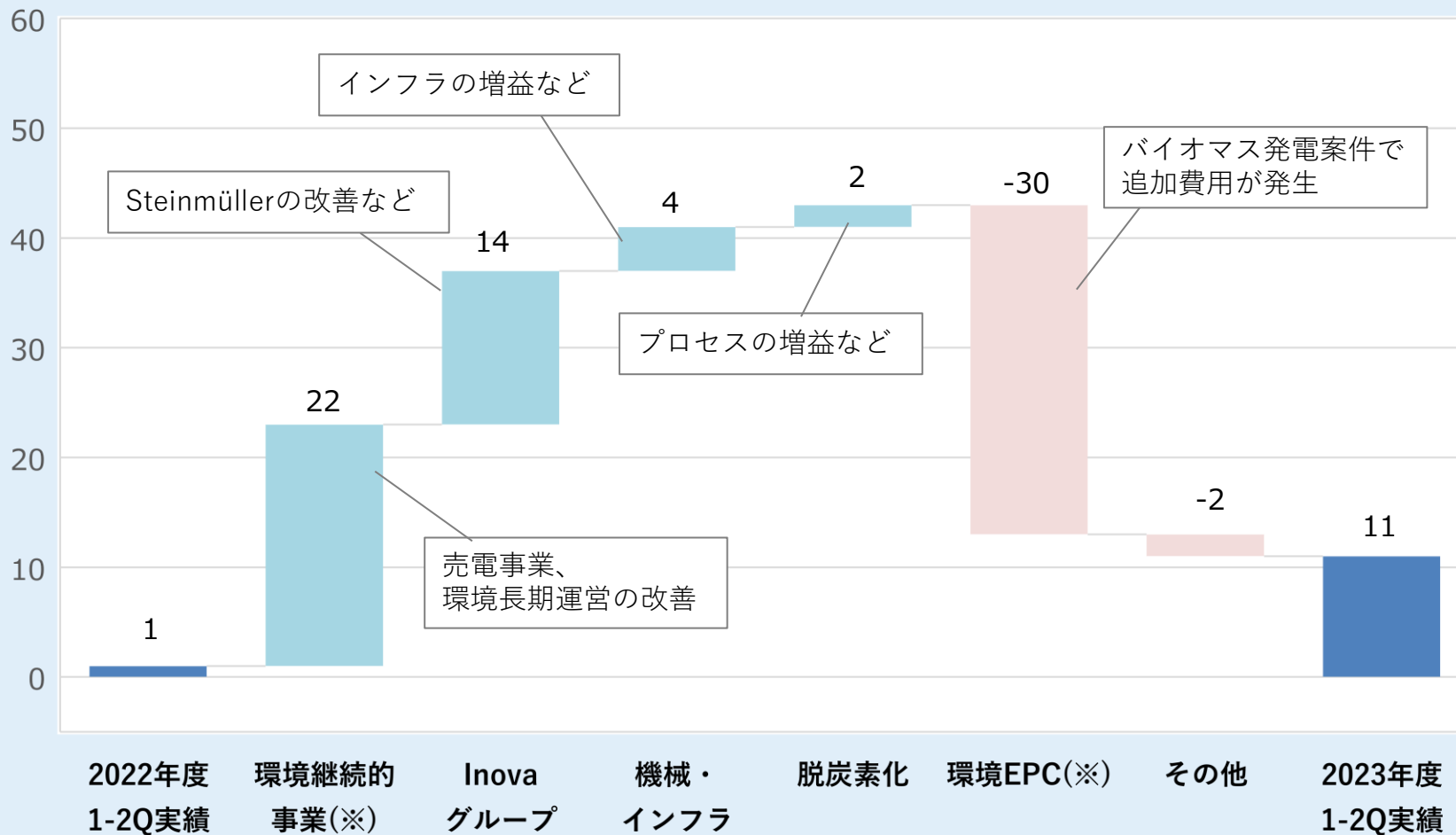
() 内は、環境に含まれる長期運営の受注残

受注残の年度別売上高展開

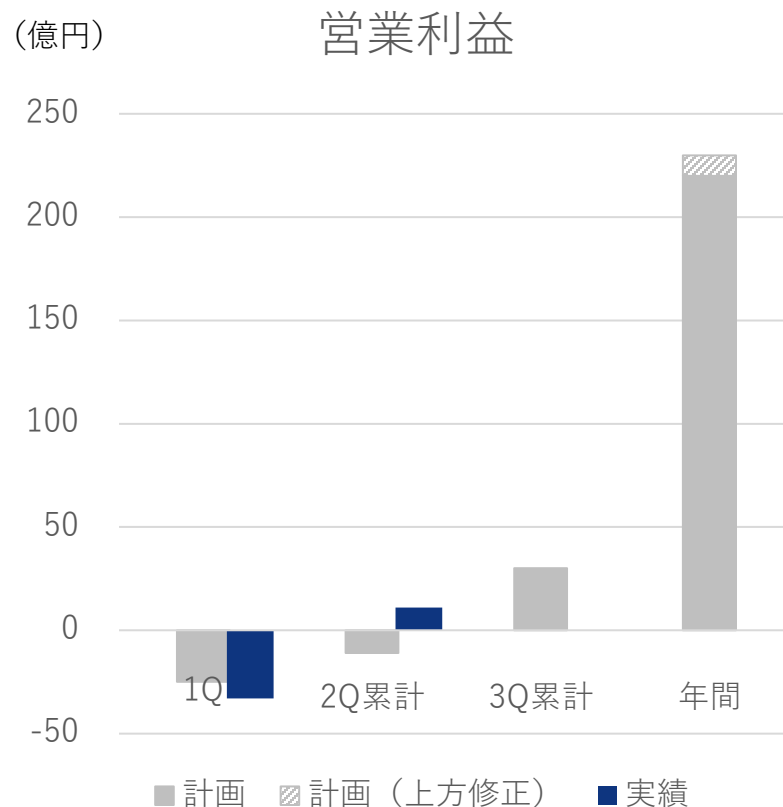
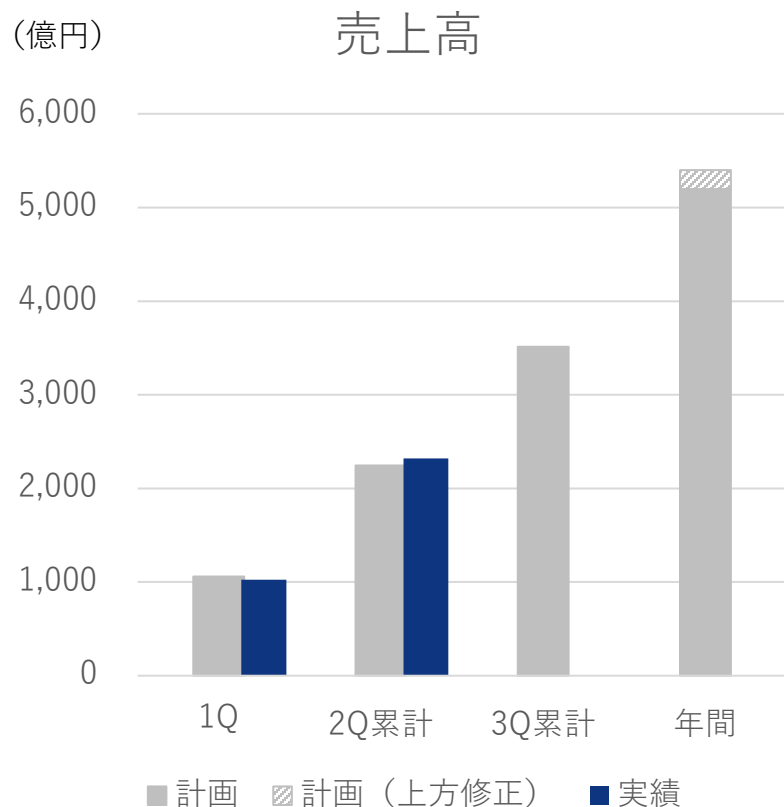
(億円)

	受注残	2023年度 (2022年度)	2024年度 (2023年度)	2025年度 (2024年度)	2026年度～ (2025年度～)
2023年9月末	14,787	3,105	3,251	1,370	7,061
2022年9月末	11,873	(2,569)	(2,813)	(1,749)	(4,742)
増加額	2,914	536	438	-379	2,319

(億円)



※Inovaグループを除く



(億円)

		2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	比較
営業 外 損 益	金利負担額（ネット）	-1	3	4
	持分法による投資損益	1	10	9
	為替差損益	-16	6	22
	その他営業外損益	-12	-11	1
	営業外損益 計	-28	8	36

(億円)

		2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	比較
特 別 損 益	特別利益	18	-	-18
	特別損失	-18	-3	15
	特別損益 計	-	-3	-3

2023年度 第2四半期決算 連結貸借対照表

(億円)

	2023年3月末	2023年9月末	比較
現金及び預金 (a)	864	852	- 12
営業資産	2,155	1,834	- 321
受取手形、売掛金及び契約資産	1,983	1,582	- 401
棚卸資産	172	252	80
有形・無形固定資産	1,094	1,158	64
その他	683	751	68
資産の部 合計	4,796	4,595	- 201
営業負債	1,146	973	- 173
支払手形及び買掛金、電子記録債務	732	466	- 266
契約負債 (前受金)	414	507	93
有利子負債 (b)	865	869	4
借入金(リース債務を含む)	565	569	4
社債	300	300	0
その他	1,372	1,319	- 53
負債の部 合計	3,383	3,161	- 222
自己資本	1,396	1,377	- 19
非支配株主持分	17	57	40
純資産の部 合計	1,413	1,434	21
負債・純資産の部 合計	4,796	4,595	- 201
自己資本比率	29.1%	30.0%	
ネット有利子負債 (b)-(a)	1	17	16

(億円)

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	比較
営業活動によるキャッシュ・フロー	296	82	- 214
投資活動によるキャッシュ・フロー	- 61	- 166	- 105
財務活動によるキャッシュ・フロー	- 36	- 38	- 2
為替換算差額	20	23	3
現金・現金同等物の増減額	219	- 99	- 318
現金・現金同等物の期首残高	659	848	189
その他増減額 ※	-	35	35
現金・現金同等物の期末残高	878	784	- 94

※新規連結に伴う現金・現金同等物の増加額

(億円)

	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 見通し
総資産	4,293	4,611	4,796	5,000
現金及び預金	473	672	864	620
自己資本	1,264	1,313	1,396	1,496
自己資本比率	29.4%	28.5%	29.1%	29.9%
ROE	3.5%	6.1%	11.5%	9.0%
有利子負債	981	919	865	900
研究開発費	66	61	86	100
設備投資	108	80	79	100
減価償却費	102	107	105	100

貸借対照表の項目は、各年度末の数字

経営・事業情報

取締役社長兼CEO

三野 禎男

カナデビア株式会社

(英文表記：Kanadevia Corporation)

Kanaderu

(奏でる)

+

Via

(道・方法)

ブランドコンセプト

“技術の力で、人類と自然の調和に挑む”

今後の予定

- 新たなロゴマークなどの検討
- 来年6月の株主総会に社名の変更を諮り、正式決定
- 2024年10月1日より、新社名に変更

2023年度上期 主要受注実績（国内）

受注時期	案件	内容	仕様など	納期、運営期間
23年4月	ごみ焼却発電 肝属地区清掃センター 管理運営事業（鹿児島県鹿屋市）	施設の運転管理業務および 点検・補修など維持管理（15年）	128トン／日 （2炉）	運営：2023年4月 ～2038年3月
23年6月	ごみ焼却発電 クリーン21長谷山 基幹的設備改良工事 （京都府城陽市）	燃烧、燃烧ガス冷却、排ガス処理 など基幹的な設備の整備・更新	2006年8月竣工 240トン／日 （2炉）	納期：2028年2月
23年6月	風力発電 むつ小川原風力発電O&M （青森県上北郡六ヶ所村）	むつ小川原港周辺地区での 陸上風力発電所の運転管理 およびメンテナンス業務（20年）	57,000kW （15基） 最大発電能力 64,500kW	運営：2026年4月 ～2046年3月
23年7月	ごみ焼却発電 北しりべし広域クリーンセンター ごみ焼却施設基幹的設備改良工事 （北海道小樽市）	施設全般の設備・機器を対象に CO ₂ 排出量削減のための 省エネ対策を盛り込んだ改良	2007年3月竣工 197トン／日 （2炉）	納期：2027年2月



肝属地区清掃センター



クリーン21長谷山



北しりべし広域クリーンセンター

受注時期	案件	内容	仕様など	納期、運営期間
23年6月	ごみ焼却発電：Inova	所掌：2024年完成予定のごみ焼却発電 プラントの運営（25年間） 客先：SSE Slough Multifuel Limited 場所：英国 バークシャー州スラウ	48万トン／年 49.9MW	2024年7月 ～2049年6月
	スラウ O&M （英国）			
23年6月	ごみ焼却発電：Inova	所掌：2023年末完成予定のごみ焼却発電 プラントの運営（25年間） 客先：Earls Gate Energy Centre Ltd 場所：英国スコットランド グランジマウス	21.6万トン／年 22MW	2023年12月 ～2048年11月
	アールズ・ゲート O&M（英国）			
23年6月	液化バイオガス：Inova	所掌：独biogeen社とバイオガスの精製・ 液化を行う合弁事業向けの機器供給 場所：ドイツ テューリンゲン州 ブランケンハイン	LBG 3,700トン 液化CO2 7,500トン （いずれも／年）	2024年末頃 （予定）
	ブランケンハイン （ドイツ）			



スラウ 現地写真（2023年10月）



アールズ・ゲート 現地写真（2023年10月）

環境事業主要プロジェクト（Inovaグループを除く）

■ 設計・施工 ■ 長期運営

	案件名	受注時期	完工(予定)	受注形態	当社所掌	暦年						
						2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
国内	高崎市	2018年6月	2025年1月	単独	EPC	[Design/Construction]						
	道央	2019年11月	2024年7月	JV/単独	EPC/運営※1	[Design/Construction] [Operation]						
	長岡市	2020年3月	2024年3月	JV	BTO	[Design/Construction] [Operation]						
	宇城広域	2020年7月	2024年3月	JV	DBO	[Design/Construction] [Operation]						
	佐賀県東部	2020年8月	2024年3月	単独	DBO	[Design/Construction] [Operation]						
	清掃一組(江戸川)	2020年9月	2027年5月	JV	EPC	[Design/Construction]						
	南薩地区	2021年2月	2024年8月	JV	DBO	[Design/Construction] [Operation]						
	能代山本	2021年11月	2026年3月	JV	DBO	[Design/Construction] [Operation]						
	枚方京田辺	2022年2月	2026年3月	JV	DBO	[Design/Construction] [Operation]						
	久喜市	2022年9月	2029年3月※2	JV	DBO	[Design/Construction]						
	広島市	2022年12月	2028年9月	JV	DBO	[Design/Construction]						
	大阪鶴見	2023年2月	2029年3月	JV	EPC+運転	[Design/Construction]						
	東大阪	2023年2月	2031年3月	JV	EPC	[Design/Construction]						
	岐阜羽島	2023年3月	2027年3月	JV	DBO	[Design/Construction]						
海外	中国・上海海浜	2019年7月	2024年4月	単独	EP+SV	[Design/Construction]						
	インド・ビダール	2020年12月	2024年3月	コンソーシアム	EP+SV	[Design/Construction]						
	台湾・彰化県	2021年7月	2024年6月	単独	EP+SV	[Design/Construction]						
	インド・モシ	2021年9月	2023年10月	コンソーシアム	EP+SV	[Design/Construction]						
	台湾・台南市	2023年2月	2026年2月	単独	EP+SV	[Design/Construction]						

※1 EPC受注後、別途長期運営を単独で受注
 ※2 既存焼却炉の解体等を含めた工期

■ 設計・施工 ■ 完工後O&M

案件名 (国)	受注時期	完工(予定)	受注形態	Inova所掌	暦年							
					2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
イスタンブール(トルコ)	2017年 9月	2021年10月完工	JV	EP+O&M(1年)	■	■						
イヴリ(仏)	2018年11月	2024年5月	コンソーシアム	EP+SV	■	■	■	■	■			
モスクワ1-4(露)	2019年11月※1	2023年6月※2	コンソーシアム	EP+SV	■	■	■	■				
ロッキンガム(豪)	2020年 1月	※3	コンソーシアム	EP+SV+O&M(長期)	■	■	■	■	■	■	■	■
ニューハースト(英国)	2020年 2月	2023年5月完工	単独	EPC	■	■	■					
エンメンシュピッツ(スイス)	2020年 2月	2025年10月	単独	EP+SV	■	■	■	■	■	■		
スラウ(英国)	2020年12月	2024年11月	単独	EPC+O&M(25年)※4		■	■	■	■	■	■	■
ドバイ(UAE)	2021年6月	2024年7月	コンソーシアム	EP+SV+O&M(35年)		■	■	■	■	■	■	■
スケルトン・グレンジ(英国)	2021年7月	2025年7月	単独	EPC		■	■	■	■	■		
ウエストフィールド(英国)	2021年12月	2025年4月	単独	EPC+O&M(25年)		■	■	■	■	■	■	■
ノース・ロンドン(英国)	2022年4月	2026年9月	単独	EP			■	■	■	■	■	■
リーベンホール(英国)	2022年5月	2026年3月	単独	EPC			■	■	■	■	■	■
リバーサイド2(英国)	2022年12月	2026年8月	単独	EPC			■	■	■	■	■	■
アールズ・ゲート(英国)	2023年6月	-	単独	O&M(25年)※5					■	■	■	■

- ※1 モスクワ1は2019年度、モスクワ2-4は2020年度の受注
- ※2 大幅遅延見込み
- ※3 コロナ影響による現地工事遅れ等により、客先と調整中 (契約納期 2022年12月)
- ※4 完工後、25年間のO&Mを追加で受注
- ※5 2023年12月から25年間のO&M (他社建設施設)

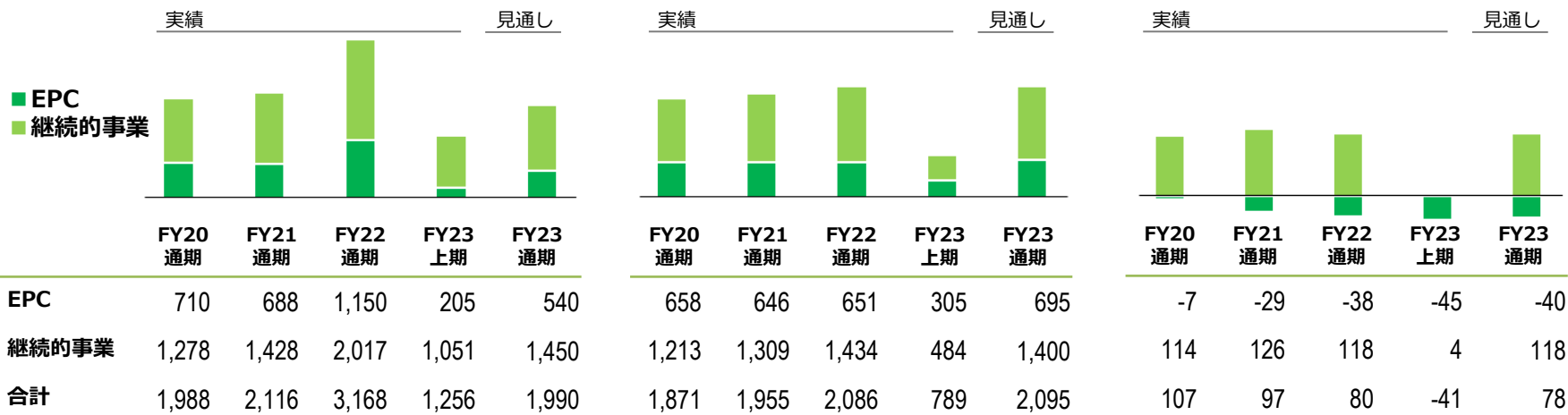
事業別の状況： 環境事業（Inovaグループを除く）

(単位：億円)

【受注高】

【売上高】

【営業損益】



国内EPC（ごみ処理施設など）

- 今年度の新設案件の市場発注量は約2,500トンの見通し（前年度比約1,700トン減）、当面は年間3,000-5,000トンでの推移を予測
- 当社シェア：23年度は例年並みと予想（過去実績 10-20%前後）
- バイオマス発電案件の遅延により発生した追加費用は、環境事業全体で吸収する見通し

国内継続的事業（ごみ処理施設など）

- DBO、BTO方式が大半を占め、今後も同様の傾向が続く見通し
- DBO増加に伴い運営受託施設が減少し、収益性は低下傾向

水事業

- 国内市場は安定、23年度の受注は順調に推移
- ストーカ式による下水汚泥焼却技術が東京都に承認、GHG排出量削減への貢献をめざす
- 海外では途上国を中心に質の高い水の需要

売電事業

- 23年度上期は、需給バランスの調整および市場調達分のコスト低下により収益改善

その他

- 産業廃棄物処理事業への参入に向けて、TREホールディングスと業務提携

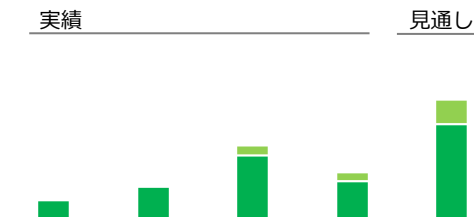
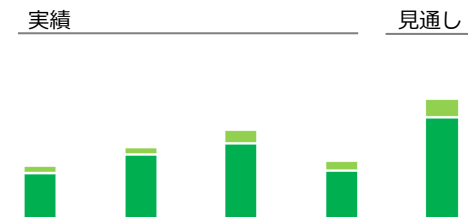
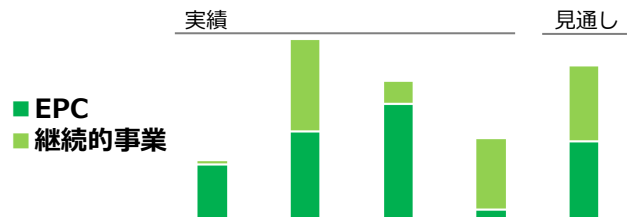
事業別の状況： 環境事業（Inovaグループ）

(単位：億円)

【受注高】

【売上高】

【営業損益】



	FY20 通期	FY21 通期	FY22 通期	FY23 上期	FY23 通期
EPC	977	1,559	2,028	179	1,380
継続的事业	72	1,619	415	1,265	1,330
合計	1,049	3,178	2,443	1,444	2,710

	FY20 通期	FY21 通期	FY22 通期	FY23 上期	FY23 通期
EPC	708	1,007	1,184	752	1,570
継続的事业	115	110	210	151	300
合計	823	1,117	1,394	903	1,870

	FY20 通期	FY21 通期	FY22 通期	FY23 上期	FY23 通期
EPC	18	31	60	37	90
継続的事业	1	-4	10	9	22
合計	19	27	70	46	112

市場での優位性が持続

英国・EU域外の新市場の拡大

収益源の多角化を推進（O&M、バイオガス）

ごみ処理施設

- EPC：23年度は下期に大型3件の受注をめざす
- O&M：1Qに英国で長期運営を2件受注

HZI Steinmüller（2022年2月買収）

- 受注、売上高、営業利益が順調に推移
- 23年度は黒字幅拡大の見通し

バイオガス事業

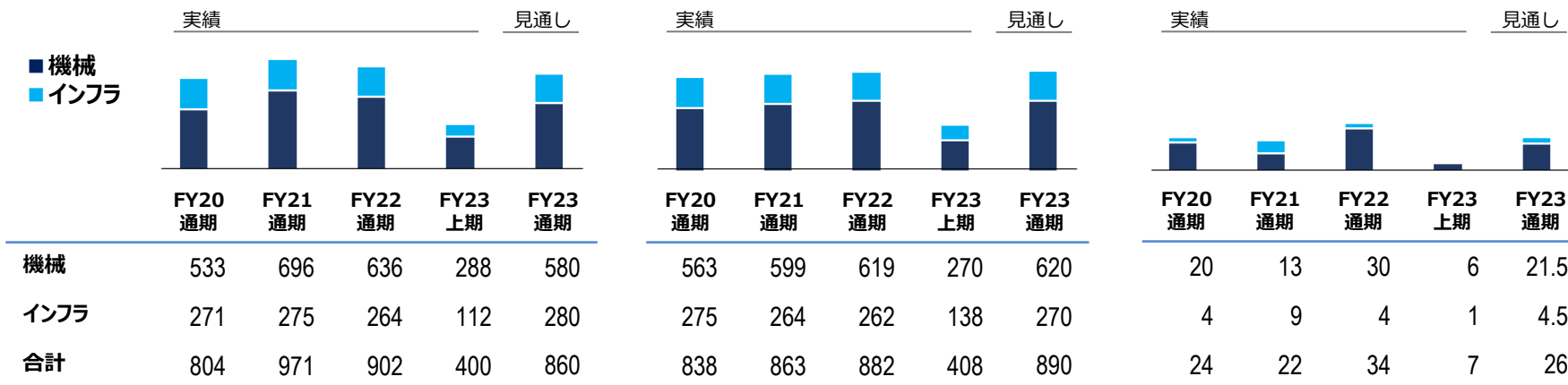
- 欧州委員会は、エネルギー転換計画（REPowerEU）の下、2030年までにバイオメタンの生産能力を30億m³から350億m³へ増強する必要性を公表
- 「Forward25」では、バイオガスの自社保有・運営事業を含むWaste to X事業へ400億円規模の投資を計画
- 1号案件をイタリアで開始（2025年に稼働・販売開始）

(単位：億円)

【受注高】

【売上高】

【営業損益】



プレス

- 大型含むプレス機械の23年度の発注量は1,580億円と前期並み（20年度比1.8倍）
（出所：日本鍛圧機械工業会 23年7月時点予想）
- EV化に備えて、レーザーブランキング装置など多様な顧客ニーズに応える製品ラインナップに向けた準備

精密機械、システム機械

- 23年半導体製造装置市場は、メモリの過剰在庫、米中の半導体対立、中国の景気低迷などにより減速
- 当社製品の需要は24年後半から再び右肩上がりを見込まれる

インフラ

- 橋梁：23年度は前期発注量(18万t)より若干下回る可能性はあるものの、上期の受注量は堅調
- 水門：23年8月にタイで資産買収により新会社を設立、将来はODA案件などを中心に海外展開
- 煙突：新設縮小も撤去工事増加見通しは継続

その他

- ライフサイエンス関連事業：
遺伝子組み換え原料を使わずに培養肉を製造するための「コムギ胚芽抽出液の自動製造装置」を世界で初めて開発

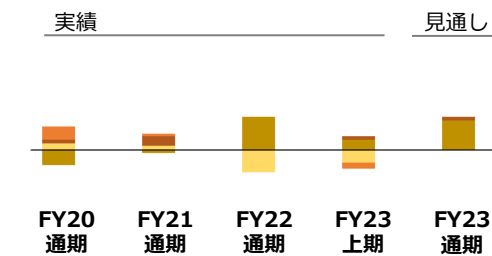
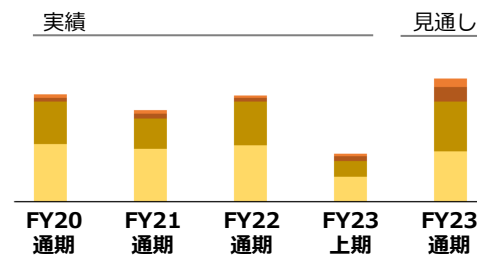
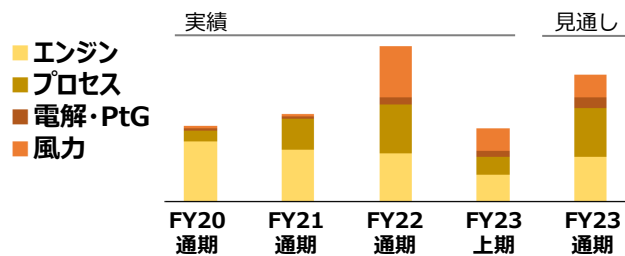
事業別の状況： 脱炭素化事業

(単位：億円)

【受注高】

【売上高】

【営業損益】



	実績		見通し		実績		見通し		実績		見通し				
	FY20 通期	FY21 通期	FY22 通期	FY23 上期	FY23 通期	FY20 通期	FY21 通期	FY22 通期	FY23 上期	FY23 通期	FY20 通期	FY21 通期	FY22 通期	FY23 上期	FY23 通期
エンジン(注)	298	256	238	132	220	253	230	247	110	220	2	1	-7	-4	0
プロセス	49	152	237	88	240	184	134	188	71	220	-5	-1	10	3	9
脱炭素化システム(注)	15	12	33	29	50	17	19	20	18	50	1	3	2	1	3
風力	7	10	254	108	110	16	16	10	12	40	4	1	-1	-2	0
合計	369	430	762	357	620	470	399	466	211	530	2	4	4	-3	12

注：FY23の数値は「エンジン」に含まれていた一部製品（脱硝装置）を、「脱炭素化システム」に移管しています。詳細はファクトシート（Excel）を参照。

エンジン

- 上期受注は堅調に推移するも、調達コスト増により、利益見通しを引下げ
- 今治造船との協業の効果は24年度以降の業績に現れる見込み

プロセス

- 石油化学プラント向け需要はコロナ前の水準まで回復、LNG向けは増加を見込む
- 脱炭素化の観点から、米国では原発の廃炉の延期が増加、国内は再稼働の動き

脱炭素化システム（旧名称：電解・PtG）

- 各種実証事業に参加、社会実装に向けた製品開発に取り組み中

風力

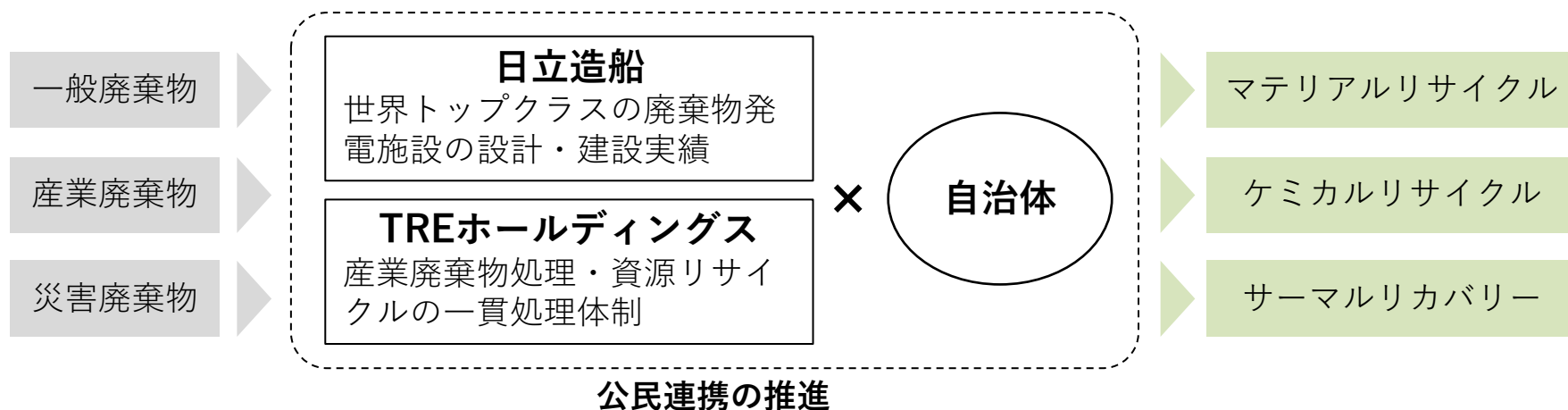
- 伊藤忠と共同で進めている青森県むつ小川原陸上風力プロジェクトのO&Mを追加受注（23年6月）
- 洋上風力については、23年度より九州大学などと共同で浮体式風力特有の現象に関する研究を推進

■欧州を中心に自社所有や運営を含むバイオガス事業へ積極投資

- 欧州委員会は、2022年5月に「REPowerEU」の中で、2030年までにバイオメタンの生産能力を30億m³から350億m³へ増強する必要性を公表
- 当社グループは、欧米でバイオガスの自社事業（DFB00方式※）へ積極投資する方針
 (例)Hitachi Zosen Inovaは、イタリア北西部のピアンフェーイにおいて、2025年から20年間のバイオメタン供給事業を行うことを決定

※DFB00：Design, Finance, Build, Own, Operate（プラントの設計から資金調達、建設、所有、運営までを一貫して実施）

■産業廃棄物処理事業への参入（TREホールディングスとの業務提携）

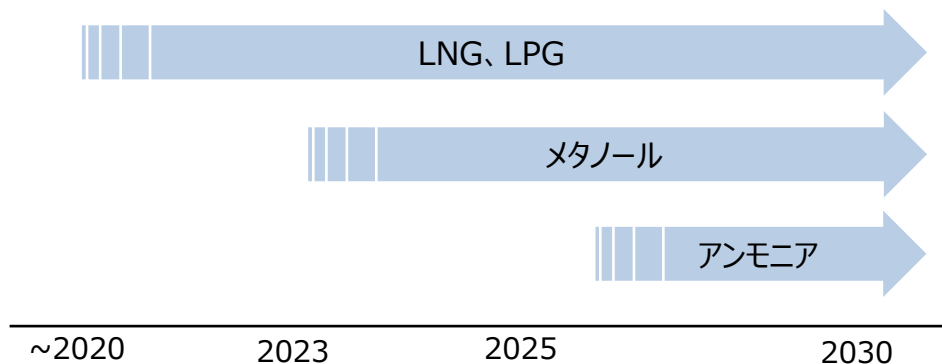


従来、個別で回収・処理されていた一般廃棄物や産業廃棄物について、合理的で一貫した処理体制を構築し、収集・運搬から灰資源化・処分に至るワンストップサービスの実現をめざす

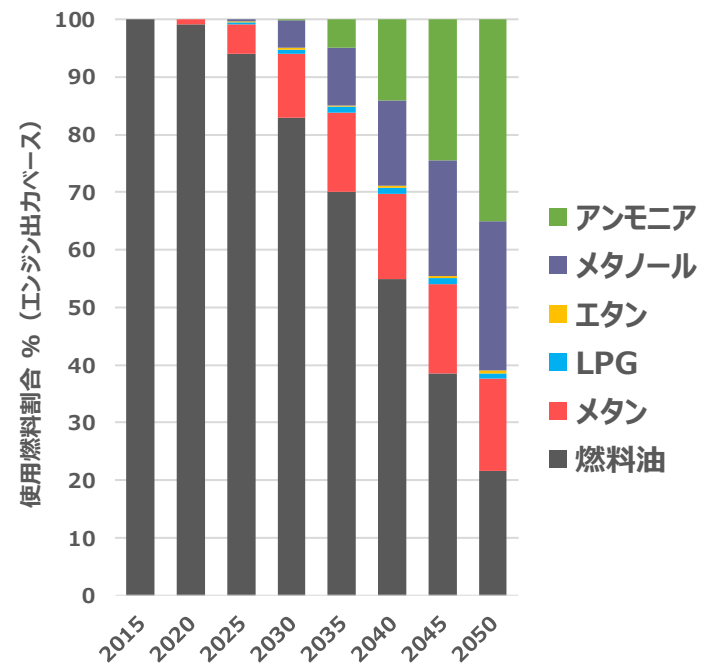
■新燃料対応エンジンへの取り組みを加速

- 独 MAN社より、グリーンメタノール対応二元燃料テストエンジンを受注
- メタノール対応船用エンジンの生産体制を整備

日立造船マリンエンジンの各種燃料への取り組みイメージ



船用2ストロークエンジンの燃料転換予測



出典： MAN ES社データ（2023年9月）に基づいて当社が作成

■原子力機器事業のグローバル展開

- NACがカナダ NIAGARA ENERGY PRODUCTSから、使用済燃料や放射性廃棄物の乾式貯蔵容器の製造・販売事業を買収
- 北米および日本から製品を供給する体制を構築

買収の効果

カナダにおける事業機会の拡大、製造能力の拡大、コスト競争力の強化、小型モジュール炉の部品サプライビジネスへの参入など

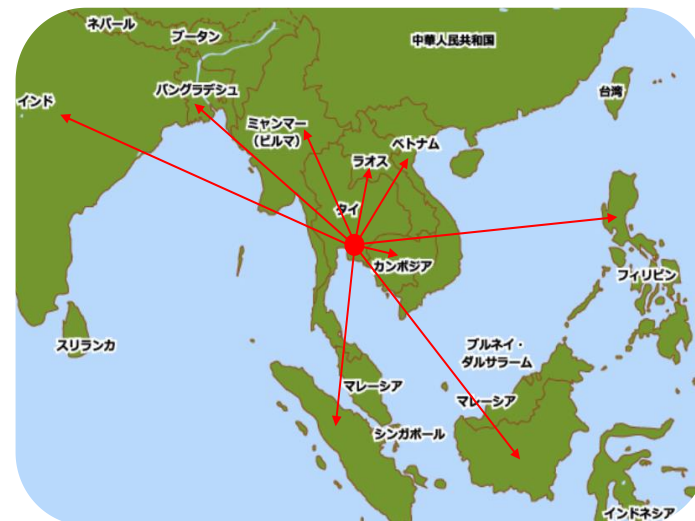
■ タイに水門などの製造を目的とした合併会社を設立

- タイやインドネシア、フィリピンなどでは、河川ゲートの需要が高く、水力発電所を伴うダム建設が数多く計画
- 海外の新設需要に対応した製造拠点を確保し、ODA案件のみならずローカル案件も含めた水門事業の海外展開を推進する

会社名： TANGENT HITZ CO., LTD.

設立： 2023年8月

事業内容：水門、鉄骨、プラント機器、海洋構造物などの製造



■大阪・関西万博における取組み

「未来社会ショーケース事業」協賛

- 博覧会協会と12企業・団体の共同事業（未来の都市）
- 当社の展示コンセプト

「In the world tree」

人の幸せが地球の幸せへ
人のエネルギーが地球のエネルギーへ
そして日立造船の技術で
『幸せな未来』を創る



展示イメージ ※

※ 企画・製作中のため、上記イメージと実際のブースデザイン・使用は異なる可能性があります。



地球と人のための技術をこれからも

日立造船はつないでいきます。かけがえのない自然と私たちの未来を。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

Hitz
Hitachi Zosen

日立造船株式会社 <https://www.hitachizosen.co.jp/>